

諍堅固の時にいたらずんば造るべからざる旨分明也。正像に出世せし論師人師の造らざりしは、佛の禁を重ずる故也。若正法・像法の中に久成の教主釋尊竝脇士を造るならば、夜中に日輪出日中に月輪の出たるが如くなるべし。末法に入て始の五百年に、上行菩薩の出させ給て造り給べき故に、正法像法の四依の論師人師は言にも出させ給はず。龍樹・天親こそ知せ給たりしかども、口より外へ出させ給はず。天台智者大師も知せ給たりしかども、迹化の菩薩の一分なれば一端は仰出させ給たりしかども、其實義をば宣出させ給はず。但ねさめの枕に時鳥の一言を聞しが如くにして、夢のさめて止ぬるやうに弘給候ぬ。夫より已外の人師はまして一言をも仰出し給事なし。此等の論師人師は靈山にして、迹化の衆は末法に入ざらんに、正像二千年の論師人師本門久成の教主釋尊竝久成の脇士地涌上行等の四菩薩を影ほども申出すべからずと御禁ありし故ぞかし。今末法に入れば尤佛金言の如きんば、造るべき時なれば本佛本脇士造り奉るべき時也。當時は其時に相當れば、地涌の菩薩やがて出させ給はんずらん。先其程四菩薩を建立し奉るべし。尤今は然るべき時也と云云。されば天台大師は後五百歲遠沾妙道としたひ、傳教大師は正像稍過已末法太有近

①造=造立 ②[さめて]- ③外=來 ④師+(かけても) ⑤[造るべき時なれば]-  
 ⑥[本]- ⑦[がて]- ⑧[と云々]-

法華一乘機今正是其時と戀させ給。日蓮は世間には日本第一の貧者なれども、以佛法論ずれば一閻浮提第一の富者也。是時の然らしむる故也と思へば喜び身にあまり、感涙難押、教主釋尊の御恩報し奉り難し。恐くは付法藏の人々も日蓮には果報は劣らせ給たり。天台智者大師・傳教大師等も及給べからず。最四菩薩を建立すべき時也云云。問云、可造立四菩薩證文有之耶。答云、涌出品云、有四導師一名上行二名無邊行三名淨行四名安立行等云云。問云、後五百歲に限るといへる經文有之耶。答云、藥王品云、我滅度後後五百歲中廣宣流布於閻浮提無令斷絕等云云。一御狀云、太田方の人々一向に迹門に得道あるべからずと申され候由其聞候。是は以の外の謬也。御得意候へ。本迹二門の淺深・勝劣・與奪・傍正は時と機とに依べし。一代聖教を弘むべき時に三あり。機もて爾也。佛滅後正法の始の五百年は一向小乘、後の五百年は權大乘、像法一千年は法華經の迹門等也。末法の始には一向に本門也。一向に本門の時なればとて迹門を捨べきにあらず。於法華經一部前十四品を捨べき經文無之。本迹の所判は一代聖教を三重に配當する時、爾前迹門は正法像法、或は末法は本門の弘らせ給べき時也。今の時は正には本門、傍には迹門也。迹門

①向=同 ②〔於〕- ③〔一部〕- ④〔或は〕-